

化学物質等安全データシート (MSDS)

作成日 2002年 8月 7日

改訂日 2010年 3月23日

(改訂内容：本社移転による変更)

1. 製品及び会社情報

製品名 ダンプレート 導電タイプ
会社名 宇部日東化成株式会社
住所 〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町9番19号
担当部門 繊維・産業資材営業部
電話番号 03-6667-2421
FAX番号 03-6667-2437
整理番号 DP (C)

2. 危険有害性の要約

GHS分類

火薬類：分類できない
可燃性固体：分類できない
自己反応性物質および混合物：分類できない
自然発火性固体：分類できない
自己発熱性物質および混合物：分類できない
金属腐食性物質：分類できない
急性毒性（経口）：区分外
急性毒性（経皮）：分類できない
急性毒性（吸入：蒸気）：分類できない
急性毒性（吸入：粉塵、ミスト）：分類できない
皮膚腐食性／刺激性：分類できない
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性：分類できない
呼吸器感作性又は皮膚感作性：分類できない
生殖細胞変異原性：分類できない
発がん性：区分2
生殖毒性：分類できない
標的臓器／全身毒性（単回暴露）：分類できない
標的臓器／全身暴露（反復暴露）：区分1（肺）
吸引性呼吸器有害性：分類できない
水生環境有害性（急性）：区分外

水生環境有害性（慢性）：分類できない
記載のない危険有害性項目は分類対象外。
GHSラベル要素



危険

危険有害性情報

発がんのおそれの疑い

長期または反復暴露による臓器（肺）の障害

注意書き

[予防策]

使用前に取扱説明書を入手すること。

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

必要に応じて個人用保護具を使用すること。

この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。

[対応]

暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。

気分が悪い時は、医師の診断／手当を受けること。


[保管]

施錠して保管すること。

[廃棄]

内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	区分 1-2【カーボンブラックとして】
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自然発火性化学品	区分外

健康に対する有害性	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	区分外
	急性毒性 (経口)	区分外
	急性毒性 (経皮)	区分外
	急性毒性 (吸入: ガス)	分類対象外
	急性毒性 (吸入: 蒸気)	分類対象外
	急性毒性 (吸入: 粉塵、ミスト)	分類できない (粉塵)
	皮膚腐食性・刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分外
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分 2【カーボンブラックとして】
	発がん性	区分 2【カーボンブラックとして】
	生殖毒性	分類できない
環境に対する有害性	特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)	分類できない (呼吸器系)
	特定標的臓器・全身毒性 (反復ばく露)	区分 1 (肺) 【カーボンブラックとして】
	吸引性呼吸器有害性	分類対象外
	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない
ラベル要素		
絵表示		
注意喚起語	危険	
危険有害性情報	自己発熱; 火災の可能性	
	遺伝性疾患のおそれの疑い	
	発がんのおそれの疑い	
注意書き	臓器の損傷 (肺)	
	安全対策	
	涼しい所に置き、日光を避けること。 適切な保護具を使用すること。 この製品を使用するときには、飲食又は喫煙をしないこと。 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。	

取り扱い後はよく手を洗うこと。

救急処置

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗う。

汚染された保護衣を再使用する場合：洗濯後使用する。

ばく露又はその懸念がある場合：医師の診断、手当てを受けること。

眼の刺激が持続する場合：医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い場合：医師の診断、手当てを受けること。

皮膚刺激又は発疹が起きた場合：医師の診断、手当てを受けること。

保管

他の物質から離して保管すること。

指定された量以上の大量品は、指定する温度を超えない温度で保管すること。

施錠して保管すること。

廃棄

内容物や容器を都道府県知事の許可を得た専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 混合物

化学名

成分	CAS 番号	官報告知整理番号 化審法・安衛法	含有率%
ポリプロピレン	9010-79-1	6-402・既存	79.3
カーボンブラック	1333-86-4	対象外（元素）	20.0
添加剤	—	—	0.70

* 添加剤には、安衛法等の対象物質を含むことがあります、記載対象外

4. 応急措置

吸入した場合

高温の溶融物から発生するガスをひどく吸入したときは、直ちに患者を毛布等で包んで新鮮な空気のある場所に移し、安静にさせる。そして、直ちに専門医の手当を受ける。

皮膚に付着した場合

高温溶融状態では火傷を起こすため、衣服の上に付いた場合でも患部を多量の水で冷やした

後、専門医の手当を受ける。

目に入った場合

目に入った場合は炎症を起こす可能性があるため、目を擦らず、直ちに多量の清浄水で15分以上洗眼する。洗眼中は、まぶたを十分開き、あらゆる部位まで水がゆきわたるようにする。洗浄した後直ちに専門医の手当を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤

多量の水、粉末、泡、二酸化炭素

特定の消火方法

消火作業は可能な限り風上から行う。

火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。

火元への燃焼源を絶ち、適切な消火剤を使用して消火する。

消火の為に放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないように適切な処置をする。

移動可能なものは、速やかに安全な場所に移動させる。

消火を行う者の保護

燃焼した場合は、熱分解、不完全燃焼等により黒煙、一酸化炭素等が発生するので消火作業の際は状況に応じ、適切な保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項

作業の際は適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。漏出した場所の周辺にロープ等を張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。

環境に対する注意事項

流出物が河川等に排出され、環境に影響を起こさせないように注意する。排水系などの水面へ漏出した場合は、鳥類、魚類等が摂取する恐れがあるので、目の細かい網状のスクリーン等の捕集設備ですべて回収する。

除去方法

漏出源を遮断し、漏れをとめる。飛散したものは掃き集めて回収し廃棄処分する。高温溶解状態で漏出した時は水等で冷却し、固化した後に処理を行う。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

取扱い場所に関係者以外の立ち入りを禁止する。機器、設備には、静電気対策を行う。

注意事項

重量物なので荷扱いに注意する。取扱いは換気のよい場所で行う。

保管

技術的対策

火気、熱源より遠ざける。

保管場所では火気をみだりに使用しない。

適切な保管条件

直射日光を避け、屋内冷暗所に保管し、通風をよくする。

製品が高温や低温に曝されたままの取扱いに注意する。製品が伸びたり、変形したり、また衝撃に弱くなったりして商品を損傷したり、けがをすることがある。

段積みする場合は荷崩れに注意する。

長期保管は避けて、できるだけ早めに使用する。

梱包を剥がした状態で放置しておくると静電気などの影響で大気中の埃により表面が汚れるので注意する。

安全な容器包装材料

ポリエチレンフィルム

8. 曝露防止及び保護措置

設備対策

取扱い場所には、全体または局所換気装置を設置する。

取扱い場所の近くに、手洗い等の設備を設ける。

管理濃度 未設定

許容濃度 未設定

保護具

呼吸器用の保護具 マスク

手の保護具 保護手袋 (軍手)

目の保護具 保護眼鏡

皮膚及び身体の保護具 保護衣 (長袖の作業服・腕カバー)

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

形状	固体
色	黒色
臭い	無臭
密度	0.90~0.92 (25℃)
融点	150~165℃
引火点	200℃以上
溶解性	水に不溶

10. 安定性及び反応性

安定性

一般的な貯蔵、通常の手扱い状態において安定である。

反応性

自己反応性はない。

避けるべき条件

加熱・高温

危険有害な分解生成物

一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

混合物としての情報はない。

急性毒性

ポリプロピレン ; 生理学的に不活性であり、人体への特別な急性作用はない。

カーボンブラック ; ラット 経口 LD 50 : >145400 mg/kg

皮膚腐食性/刺激性

通常の状態では刺激性はないが、加工中に発生する粉塵や蒸気の吸入を避ける。

生殖細胞変異原性

カーボンブラック ; 体細胞 *in vivo* 遺伝毒性試験 (ラット肺胞細胞の DNA 付加体形成試験およびラット肺胞細胞 hprt mutation 試験) でそれぞれ陽性結果があるが、*in vivo* 変異原性試験にて明確に陽性が出ているデータはみあたらない。

発がん性

ポリプロピレン ; IARC グループ 3 (ヒトに対する発がん性については分類できない)

カーボンブラック ; IARC グループ 2B (ヒトに対して発がん性を示す可能性がある)

日本産業衛生学会 第2群B (人間に対しておそらく発がん性

があると考えられる物質)

ACGIH A4 ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質

本製品に含有されているカーボンブラックの有害性は上記の通りであるが、本製品自体はカーボンブラックを樹脂中に混練しているため、単体と同様の危険性はないものと考えられる。但し、粉碎や切断時に粉じんが発生した場合は、カーボンブラックが単体として存在している可能性があるので注意が必要である。

特定標的臓器・全身毒性；ヒトでの知見（じん肺症）及び動物知見（繊維症）がある。

1 2. 環境影響情報

残留性／分解性

環境において、長期間分解しない。

その他の情報

成形品の水溶解性は無視できるので、水生生物に対する毒性は弱いと思われる。

小片は海洋生物、鳥類が誤って食べることがあり、いかなる海洋や水域にも投棄、放出してはならない。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物や包装材を廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）及び関連法規・法令を順守し、適正に処理する。

1 4. 輸送上の注意

国際規制

国連分類 該当しない

海洋汚染物質 非該当

国内規制 消防法等の規制に基づいて行う。

輸送の特定の安全対策及び条件

輸送前に包装は濡れのないことを確認する。

転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

異物、水の混入及び直射日光を避けるため、カバーシート等をかけて輸送する。

緊急時応急措置指針番号 非該当

1 5. 適用法令

化学物質管理促進法 該当しない

労働安全衛生法 法第57条の2 (名称等を通知すべき有害物)

毒物及び劇物取締法 該当しない

消防法 「指定可燃物」 (合成樹脂類) (被覆樹脂3000kg)

1 6. その他の情報

記載内容の問い合わせ先

宇部日東化成株式会社 環境安全対策室

電話番号 : 058-271-5511

FAX番号 : 058-271-1859

出典

1) 産業衛生学会誌48巻 日本産業衛生学会 (2008)

2) 化学防災指針集成 丸善

他に、原料メーカーからのMSDSを参考にしています。

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、記載データや評価に関しては、いかなる保証をなすものではありません。また、注意事項は通常の手扱いを対象にしたものですので、特別な手扱いをする場合には新たに用途・用法に適した安全対策を実施の上、お取扱い願います。